

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500064		
法人名	株式会社 インテント		
事業所名	グループホーム いろは		
所在地	宮崎県小林市細野2283-3		
自己評価作成日	令和元年11月20日	評価結果市町村受理日	令和2年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和元年12月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念をもとに、入居者様の尊厳や個性を大切に、入居者様一人ひとりが自分らしく安心して穏やかに生活ができるよう、コミュニケーションを大切にしています。取組としては、毎日の記録に会話内容や気分の変化を記入することで、ご本人が何を感じ、何を求めているのかを知り、その思いを受け入れられるような対応をケアプランに反映させています。また、日々の生活の中でその方ができることや得意なことを見つけ張りのある生活ができるようなケアを心掛けています。認知症のケアとしては、認知症状が少しでも改善され、その方がより自分らしく生活ができるよう努力しています。職員育成の一環として清掃の徹底、職員間がより良い関係を築いていけるよう、感謝の気持ちを伝えるためにサンクスカードを活用する、人事考課制度を取り入れるなど職場環境の改善などにも取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営方針に沿って利用者の個性や尊厳を尊重し、穏やかに過ごせるよう支援を行っている。また、行事等を開催し地域住民との交流に取り組んでいる。人事考課制度による働き方の確認を行うなど働く環境や職員の質の向上に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『入居者様が自分のペースで自分らしく生活できるよう、その方の尊厳を守り安心して穏やかな毎日を過ごして頂く』ことをいろはの理念とし、毎日朝礼で唱和し、職員全員で理念の共有をしている。	運営方針や理念を職員で共有するよう取り組んでいる。実践が理念に沿っていないときは、その都度改善策を全員で考え、取り組むよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際は、地域の方々に積極的に挨拶をしている。また、花見や夕涼み会、避難訓練、茶話会等の行事に地域の方々を招待し参加して頂くことで、交流を深めている。	回覧板等で事業所の行事の案内を行い、地域住民が夏祭りや花見会、茶話会を兼ねた避難訓練等に参加されるなど、地域交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアの受け入れ、茶話会を開催し、施設での入居者様の生活を実際に見て頂いたり、お話を頂くことで、認知症の方への理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用状況や生活状況、行事への取組について報告している。また、意見を頂いた際は、今後のサービスの向上に活かしている。	事業所からの報告とともに検討事項等がある場合には、参加メンバーから意見をもらいサービス向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、施設状況を報告している。また、地域連絡協議会にも参加し、意見交換を行っている。	居室の空き情報等事業所の状況を市の担当課に報告したり、認定更新や区分変更申請等の機会に担当者へ直接情報を提供したりして協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束について勉強会を行い、全職員で知識を共有している。玄関の施錠は夜間以外はしておらず、センサーを玄関に置いているが、決して行動の抑制はせず見守りや声掛けにて対応している。	身体拘束をしないケアについて勉強会を行い、実践に取り組んでいる。玄関にセンサーを設置し、夜間以外は施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待について勉強会を行い、全職員で知識を共有している。職員に対しても希望休暇や有給休暇をとりやすい体制をつくり、仕事上の悩み等があれば、毎月の評価の際やその都度話を聞くようにし、精神的なストレスから虐待が起こることがないように配慮している。また、ストレスケアについての勉強会も予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近、2名の方が成年後見人制度を利用することになった。成年後見センターと連携を図りながら、面会に来て頂き、生活状況の報告等をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすいよう説明している。ご家族が不安に思っていることや、不明な点がある場合は、納得して頂けるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に機会を設けてはいないが、面会時等に意見や要望が上がった時には検討している。	面会や電話連絡の際に、意見や要望を聞くように努めている。毎月園便りに利用者の写真を載せ、要望等を出しやすいよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務上での問題点や改善案などについては、専門職やリーダーと検討したり、職員会議にて全員で検討するなどし、その都度改善している。	面談等職員から意見を聞く機会を設けたり、職員会議で意見を出しやすい雰囲気づくりに努めるなど、出された意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与・昇給・処遇改善加算等についての勉強会を実施している。また、人事考課制度を取り入れることでモチベーションアップへ繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や資格取得のための休暇の確保や勤務調整をするなど、参加しやすい環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修等に参加し、他施設との意見交換や交流の場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人、またはご家族の方に施設見学をして頂き、入居者・職員・施設の雰囲気を確認して頂いている。また、不安や要望等を十分聞き、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や悩み、困っていること、要望等を傾聴し、安心して頂き、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聞き、何がその方にとって必要なサービスなのかを見極め、安心して生活して頂けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『ご自分でできることはして頂く』ことを基本としており、それぞれの能力に応じたお手伝いなどをして頂いている。また、感謝の気持ちや労いの言葉を伝えることで、良好な関係作づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を第一に考え、ご本人にとってどのようなケアが必要か、受診の付き添い等協力を頂きながら、ご家族と共にご本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅中に利用されていたレストランや行きつけの美容室へご家族のご協力を頂きながらお連れするなどの支援をしている。	馴染みのレストランや美容室に行ったり、墓参りに行くなど家族の協力をもらいながら支援している。また、馴染みの人との面会など交流が続けられるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係を常に把握し、入居者同士が関わりやすいような環境の提供や、職員が間に入りながら入居者同士が良好な関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先への細かい情報提供を行っている。また、ご家族へも必要時にいつでも相談して頂くよう声掛けをしている。また、相談しやすいような雰囲気づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望を大切に、日々の会話の中で把握したことを記録に残し、本人本位のサービスの提供に努めている。	利用者の思いに寄り添いながら、一人ひとりに丁寧な対応を心がけるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限りご本人やご家族から聞き取りを行い、また、必要に応じて以前のケアマネジャーからも情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションからその方の心身状況や能力の把握に努め、1日の流れや気分の変化等を記録に詳しく残し、支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングをもとに、できる限りご本人やご家族の意見も聞きながら介護計画の作成をしている。	担当者が毎月モニタリングを行いまとめたものを基に、本人や家族、関係者の意見を聞いて介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の行動や言葉を具体的に記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しやケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるよう、他職種連携に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアをはじめ、出張理・美容院の依頼、消防隊員による防災訓練や心肺蘇生法の実技指導等、安全で豊かな暮らしができるよう地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。	本人、家族が希望するかかりつけ医となっており、定期受診は、家族または職員が付き添い、専門医受診が必要になったときは、適切な医療機関での受診ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に観察し、心身状態の把握に努め、些細なことでも異常に気付いたらすぐに看護師に報告・相談し、早期治療、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して医療を受けられるよう、病院への情報を詳しく行っている。また、入院中も面会へ行き病院関係者と情報交換をするなど、良好な関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のことや看取りについては、契約時にできることとできないことを説明し、同意を得ている。	看取りについては行ってないことを契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、家族等と話し合い、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、マニュアルを作成し、スムーズに行えるようにしている。また、職員会議で看護師から指導を受けたり、定期的に勉強会をしている。年に1回必ず、救急隊員により心肺蘇生法の実地指導訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行い、入居者の安全な避難ルートの確認、通報訓練を行っている。また、消防署・警備会社をはじめ、地域住民の方々にも呼びかけ、参加して頂いている。	避難訓練は年に2回消防署や地域住民も参加して行っている。夜間を想定した訓練では、利用者にベッドに寝ている状態で参加してもらい、避難の仕方の訓練を行うなど災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、認知症であっても人生の大先輩であるという気持ちを持って接し、赤ちゃん言葉を遣わない等、職員会議や勉強会で意識付けしている。	言葉遣いや声のかけ方で、利用者の誇りや感情を損ねることがないように、職員会議等で話し合い、職員間で注意し合うよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや要望を言いやすいような雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『自分のペースで自分らしい生活を送る』と理念にも掲げているように、できる限りご自分のペースで1日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って染髪をしたり、髭剃り(職員による手剃り)をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事準備をすることはできていないが、テーブルを拭いて頂いたり、コップを下げる等の簡単なお手伝いはして頂いている。	利用者がホームの菜園で収穫し、職員と一緒に下ごしらえをするなど食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により栄養バランスの良い献立を作成し、個々の食事・水分の摂取状況をチェックしている。水分摂取に関しては水分制限のある方以外は1500～1800ccを目標とし、好みのものを出したり、とろみ剤を使用し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。義歯の方は夕食後に義歯洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けにて誘導している。また、最小限のおムツ使用を心掛けている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の状態に応じた介助に努め、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保、運動、食物繊維を多く含む食事の提供で、できる限り自然排便を促している。また、看護師や主治医と連携を図り、薬での排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの体力や希望に沿った入浴を提供している。拒否があった時は無理強いしない。また、ゆっくり入浴できるよう、1対1入浴としている。	毎日午後に入浴の時間を設け、利用者は1日おきに入浴している。体調や体力に合わせて湯にしたり、入浴を拒む場合は言葉かけを工夫したりしながら、一人ひとりに応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、また体力等にも考慮しながら休む時間を調整したり心地よく安眠できるよう、室温管理や寝具の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている目的等はほぼ理解している。配薬についてはセット時の二重確認、渡す際の声出し確認、服薬チェック表の活用にて誤薬がないよう注意している。状態の変化が見られる時はすぐに看護師、主治医に報告し連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意分野等コミュニケーションを通じ把握し、お手伝いをして頂くことで自信に繋げ、張りのある生活が送れるよう支援する。また、嗜好品についてもご家族の協力を頂きながら自由にして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と職員が連携を取りながら、外食や墓参りなどの外出支援を行っている。	いちご狩りや花見などを計画し、利用者全員で出かける機会をつくっているが、日常的な外出が少ない。	計画された行事等の外出だけでなく、日常的に屋外の空気に触れて、気分転換ができるような外出支援が行われることに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、トラブルを防ぐため事業所でお預かりしている方もおられる。ご家族へは預り金から物品購入をすることについて許可を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族や知人へ電話の支援を行っている。また、手紙のやりとりができるよう必要物品の準備をするなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間は常に清潔にし、季節感のある室内装飾を行い、リビングから見える菜園には季節の野菜を植えるなどし、成長や収穫を楽しめる環境を整備するとともに、季節感も感じて頂いている。	共有空間は、季節感のある飾りつけを行い、室温や明るさを利用者に合わせ調整している。また、利用者の動きに合わせて家具を配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子を置き、自由に過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には在宅で使われていた家具や馴染みの物が置かれている。また、ご家族との写真や、仏壇・位牌等も持って来られ、プライバシーを大切に、安心して過ごせる環境を提供している。	使い慣れた家具や仏壇など馴染みのものを持ち込み、その人らしい居室で過ごせるよう努めている。また、家族写真や利用者へのメッセージ等を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりができること、できないことを把握し、その方の行動を見守り安全かつ少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。		